

## 耕作放棄地の解消と「あけぼの大豆」栽培への挑戦！ (株式会社川口建設)

<法人の概要> 所在地：山梨県身延町

設 立：昭和 28 年 11 月

資本金：2,000 万円      売上高：1.7 億円（平成 26 年決算）  
（うち農業売上高：160 万円）

役 員：2 名（うち農業従事者 1 名）

従業員数：常時雇用者 6 名（うち農業従事者 0 名）

臨時雇用者 2 名（うち農業従事者 2 名）

経営面積：1.7ha（山梨県身延町）

営農作物：大豆、水稻、小麦

農業開始時期：平成 22 年 5 月



農作業の様子



法人経営圃場

<農業参入に至った経緯・動機>

・土木業は年間を通じて業務量に片寄りがあり、また将来的に受注量の減少を危惧し、企業の存続と従業員の雇用の維持のため新たな事業の展開を必要としていた。

・県の農務事務所より、地元身延町の耕作放棄地の再生を含めた提案を受け、地域貢献も兼ねて参入を決意。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

・作物選定に当たっては、身延町で参入するのであれば、「あけぼの大豆※」と決めていた。

・地域の担い手不足から耕作放棄地化している農地の紹介を受け、リース方式により、農業に参入。

・耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用するなど 1.0ha 以上の耕作放棄地を解消し、本業である土木業の作業機械やスキルなども十分に活用した。

＜営農開始から現在まで＞

- ・ 人・農地プラン（身延町西島地区）の中心経営体に位置づけられている。
- ・ 栽培技術については、県の普及センターより指導を受けている。
- ・ 当初は、農業機械の導入が遅れていたため、手作業による栽培に限界を感じていたが、県の助成金を活用し、現時点では改善されつつある。
- ・ あけぼの大豆を主とした営農を描いているが、本業の繁忙期と枝豆の収穫期が重なり、全てを収穫しきれないこともあり、経営規模拡大を目指すのであれば工夫が必要であると考えている。
- ・ 商工会と連携した地域イベント「あけぼの大豆産地フェア」を開催し、枝豆収穫体験として今年も3日間で延べ1000人以上参加者を受け入れた。

＜今後の農業経営の展開方向＞

- ・ 虫食い莢（さや）や1粒莢などの商品価値のない枝豆が多いため、栽培技術の向上により安定的な品質を確保し、加えて商品価値のない枝豆の加工を実現し、経営面積を拡大することが理想。
- ・ （株）川口建設としてだけでなく、地域全体で地域資源である「あけぼの大豆」の地名度を上げ、商品の販路を確保していくとともに、地域を盛り上げたい。

＜今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス＞

- ・ 販路の確保が重要。

※＜あけぼの大豆＞

元々、身延町合併前の旧中富町の標高 500mほどに位置する曙地区でのみ栽培され、一般的な大豆より大粒で糖含有量が高いことが特徴。  
今現在では身延町の特産となっている。



あけぼの大豆



あけぼの大豆産地フェア